

# 週刊センターニュース

# No.108



第108号(2006年5月8日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

第114回 日時: 5月11日(木) 16:30~18:00

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

報告者: 早田 幸政(大学教育開発・支援センター 評価システム研究部門)

テーマ: 設置認可システムの改革と高等教育の質保証

趣旨: 規制緩和の流れの中で、設置認可行政も緩やかになってきた。そうした制度的背景の下、株式会社立大学の跋扈は、高等教育の十全な質保証の懸念材料ともなりつつある。本報告は、設置認可と認証評価の協働のシステム化の方向性を視野に入れ、現下の高等教育改革の方向性を考究する上での一素材を提供しようとするものである。

## オープンコースウェア国際会議参加報告

4月20日(木)に京都大学吉田キャンパスで開催された標記の会議に参加した。オープンコースウェア(OCW)については、少し古くなるが『週刊センターニュース No.28』(2004.09.21)で簡単に紹介させていただいているので、そちらを参考にさせていただきたい([http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/centernewsNo.28.pdf](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/centernewsNo.28.pdf))。今回は、このマサチューセッツ工科大学(MIT)のOCWプロジェクトに刺激を受けて、同様の活動を開始した世界各国の高等教育機関関係者が集まった国際会議で、各機関でのOCWのデモンストレーションや、その取組についての紹介、課題と展望についての議論などが行われた。参加国・地域は、日本、アメリカ、中国、台湾、スペイン語・ポルトガル語圏、フランスなどであった。

- ・日本 日本オープンコースウェアコンソーシアム(JOCW, <http://www.jocw.jp/sub1.htm>)
  - 慶応大学(<http://ocw.dmc.keio.ac.jp/j/>) 京都大学(<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/jp/index.htm>)
  - 大阪大学([http://ocw.osaka-u.ac.jp/index.php?lang=\\_ja](http://ocw.osaka-u.ac.jp/index.php?lang=_ja))
  - 東京工業大学(<http://www.ocw.titech.ac.jp/index.php?lang=JA>)
  - 東京大学(<http://ocw.u-tokyo.ac.jp/>) 早稲田大学(<http://www.waseda.jp/ocw/indexj.html>)
  - 名古屋大学(<http://ocw.nagoya-u.jp/>) 九州大学(<http://ocw.kyushu-u.ac.jp/>)
  - 北海道大学(<http://www.ocw.hokudai.ac.jp/>)
- ・アメリカ
  - MIT (<http://ocw.mit.edu/index.html>)
  - Tufts University (<http://ocw.tufts.edu/>)
  - Utah State University ([http://ocw.usu.edu/Index/ECIndex\\_view](http://ocw.usu.edu/Index/ECIndex_view))
- ・中国
  - CORE (<http://www.core.org.cn>)
- ・台湾
  - OOPS (<http://www.myoops.org>)
- ・スペイン語・ポルトガル語圏
  - Universia (<http://www.universia.net/>)
- ・フランス
  - Paris Tech (<http://graduateschool.paristech.org/>)

これらの他にもイギリスのOpen Universityが2006年3月からOCWに取り組み始めており、ベトナムにもその波が広がりつつある(<http://ocw.fetp.edu.vn/home.cfm>)。

各高等教育機関の活動については、上記URLから直接見ていただくとして、ここでは、JOCWメンバーによるパネルディスカッションIでの議論について報告させていただくこととする。そこでは、日本でのOCWに関して現状および将来の課題について、各大学担当者から報告がなされた。大きなポイントは以下の5つであった。

## 1. 著作権処理

OCW は大学での「生の講義をそのまま公開すること」を目指しているため、現在の著作権法上では教室内に限って認められている教材、資料等の利用に関して問題となる場合もある。そのため、各大学では、アルバイトの学生を使って教材、資料を一つずつチェックし、出版社へ連絡したり、弁護士と相談したりしているとのことであった。大学によっては知財本部はあるが著作権処理の部署が無いため困っているとの声もあった。教員による授業準備としてのコンテンツ作成にかかる時間と手間を1とすると、この著作権処理には10かかるとのことであった。この問題に関して、MITではCreative Commons Copyright(CCC, <http://creativecommons.org>)を活用した教材作りを進めているので、ここまでの手間はかからないとのことであった。早稲田大学でも同様にCCCを利用しているそうである。

## 2. 費用・継続性

OCW用に別途予算を用意するというよりは、学内的にOCWを広報活動、社会貢献、研究支援、教育支援、教育改革の一環として位置づけ、活動資金を捻出している大学が多かった。継続性を考えると、OCWを全学的な活動として位置づけることが絶対必要であるという点では、パネリスト、会場ともに意見が一致していた。また、全ての費用を個別大学単独で負担するのは不可能であり、JOCWメンバーおよび産業界が連携した形で発展させていく必要があるとの意見も出された。

## 3. 学内教育関連情報システムとの連携

学内で行われている他のe-Learningや学習管理システムとの連携をどうするかも、各大学での悩みとのことであった。OCWを単なる広報、社会貢献活動ではなく、効果的な学内教育活動として位置づけ有効に活用したいという願いは、上記の費用・継続性とも絡んで大きな問題であるように感じた。

## 4. 言語

「誰に見てもらいたいのか(入学志願者向けなのか、他大学の教員、学生なのか、国際的な情報発信、知の共有のためなのか)によって、日本語、英語を使い分けた方がいいのでは」とか「OCWは本来「生の講義をそのまま公開すること」が目的なので、日本語で行われている授業をわざわざ英語で作り直す必要はあるのか」といった指摘がなされた。

## 5. 評価

単純にOCW各コースへのアクセス数ではなく、OCWが学内、学外でいかに役立っているか(例えば、OCWによって入学志願者の地域が国内外で広がったなど)を証明する必要がある。ただ、どういう観点で評価してもらいたいかは、各メンバー高等教育機関が考えないと活動を継続させるのは難しい。大阪大学ではOCWサイト訪問者にコメントを求めていくような仕組みを検討中とのことであった。

既に取り組んでいる大学からの報告は、このように苦労話を中心となっていたため、会場からOCWに参加することの意義は何かとの質問が出た。それに対して座長からの回答は「知の共有、社会への発信として大学の社会責任を果たす」、「通常のe-Learningなどと比べて、大学で普通に行われている講義をそのまま公開する形のOCWは比較的楽である」であった。前者はその通りであると思えたが、後者は、現時点では、上記5ポイント(特に1、2)を考えると十分納得できる回答とは言えないように思えた。しかし、日本での取り組みも、特定のグループメンバーによる「日本OCW連絡会」から、日本の高等教育機関全体として大きな流れにしていきたいとの願いから、どの高等教育機関でも参加できる「日本OCWコンソーシアム」(2006年9月から会員募集予定)へと変化した。「講義をそのままの形で公開する」というOCWは、社会へのアピールだけでなく、学内での高い教育改善効果も期待できるため非常に興味深い活動であり、今後、当センターとしてもその活動に注目していきたいと思った。(文責 教育支援システム研究部門 堀井)

## 双方向遠隔授業「医事法入門」授業公開のお知らせ

本学角間キャンパスを発信教室とし福井大学松岡キャンパスを受信教室とする、標記授業は、シラバスに「FD活動の一環として、本学教職員に対して公開することがある」と記しております。受講生も確定しましたので、5月11日より授業公開します。木曜日3時限目、総合教育棟D10教室にて開講しておりますので、是非ご参観ください。なお、お手数でも参観後の感想をメールにて必ずお寄せください。授業改善の資料とさせていただきます。(教育支援システム研究部門 青野 透)